

# 宮城県稲作情報

宮城県米づくり推進本部  
(事務局 宮城県農林水産部農産環境課)

平成30年 8月30日発行

第 4 号

編 集 者

宮城県古川農業試験場

発 行 所

公益社団法人 みやぎ農業振興公社

## 気象経過と生育の特徴

### 【気象】

- 7月下旬の気温は平年より高く日照時間は平年より多かった。
- 8月上旬の気温、日照時間は全般に平年並だが地域間差が大きかった。

### 【水稻】

- 県平均出穂期は7月31日（平年より4日早い）
- 出穂期前25日間の気温と日照時間は平年を上回った。
- 出穂期後15日間の日照時間と気温日較差は平年を上回った。

## これからの栽培管理の要点

### 【水稻】

- 収量・品質向上のため、落水時期は出穂後30日前後を目安とする。
- 適期刈取りと適正な乾燥調製で良質米生産。
- 平坦部中生品種「ひとめぼれ」の刈取予測（出穂期以降の積算平均気温から推定）は、9月8日頃から刈取適期に入ると推定される。
- 収穫用機械・乾燥調製施設等の点検・整備は、早めに行う。

### 【大豆】

- 明きょや排水溝の補修を行い、排水対策を徹底する
- 病害虫の適期防除を行う。

### 【麦類】

- 適期播種を行うため、稲刈り計画とあわせて麦の作付計画を策定する。

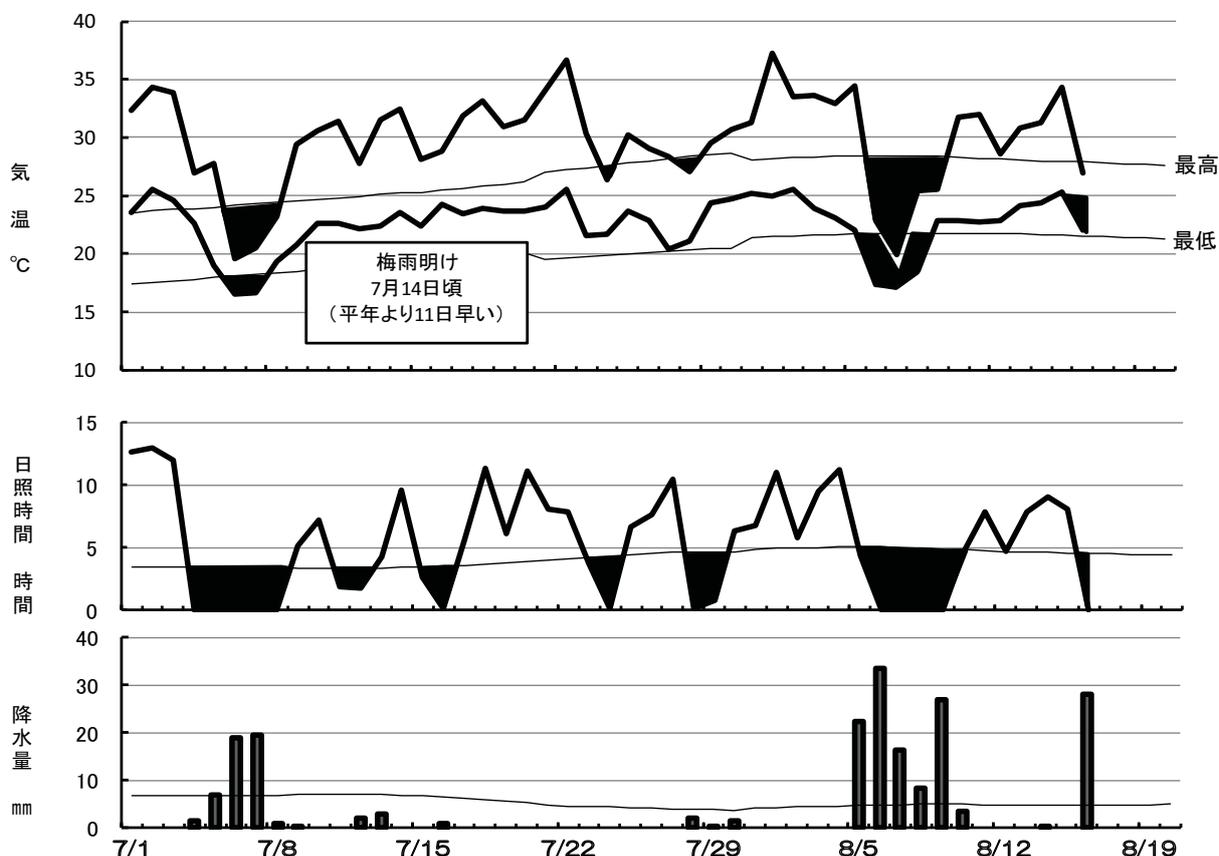


図1 気象経過(観測地点: 仙台アメダス7月1日~8月16日)

7月下旬は高温多照、8月上旬は全般に平年並だが地域間差があった。

## 【7月下旬～8月上旬の気象経過】

- ・7月下旬は台風第12号の影響により曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。旬平均気温は高い。旬降水量は平年並から少ない。旬間日照時間は平年並から多い。
- ・8月上旬は高気圧に覆われて晴れる日もあったが、前線や台風第13号の影響により曇りや雨の日が多かった。特に5日から6日にかけては前線の影響で大雨となったところが多かった。旬平均気温は平年並。旬降水量はかなり多いから多い。旬間日照時間は平年並。
- ・仙台アメダスにおける7月下旬の平均気温は26.2℃（平年差+2.5℃）で平年より高く、日照時間は58.7時間（平年比117%）であった。8月上旬の平均気温は25.2℃（平年差+0.6℃）、日照時間は46.6時間（平年比89%）であった。
- ・県内各地点の8月上旬の日照時間は平年比89～125%の範囲で地域間差が生じた（表1）。

表1 7月下・8月上旬の気象表（各アメダス地点）

地点	7月下旬(7/21-31)				8月上旬(8/1-10)			
	平均気温		積算日照時間		平均気温		積算日照時間	
	本年 (°C)	平年差 (°C)	本年 (hr)	平年比 (%)	本年 (°C)	平年差 (°C)	本年 (hr)	平年比 (%)
気仙沼	23.7	+1.3	43.7	74	22.8	-0.5	50.1	89
川渡	24.9	+2.4	54.1	119	23.2	-0.1	51.7	114
築館	25.5	+2.2	57.1	129	23.8	-0.2	54.6	125
米山	25.6	+2.3	60.7	105	24.2	+0.1	55.3	103
古川	25.5	+2.1	60.5	121	24.0	-0.3	52.8	107
石巻	25.2	+2.4	58.6	104	24.2	+0.5	59.2	102
仙台	26.2	+2.5	58.7	117	25.2	+0.6	46.6	89
白石	25.3	+1.9	59.4	116	23.9	-0.4	51.9	103
亘理	25.0	+1.6	67.8	125	24.3	0.0	53.2	99
丸森	26.1	+2.6	76.6	143	24.9	+0.6	52.0	96

注) 平年値: 過去30か年(昭和56～平成22年)の平均値

## 【出穂期前後の気象】

- ・出穂期前25日間の気温と日照時間は平年を上回った。
- ・出穂期後15日間の最高気温と日照時間は平年を上回り、気温日較差は平年を上回った（表2）。

表2 出穂期前後の気象（古川アメダス）

年次	県出穂期	出穂期前25日間				出穂期後15日間			
		気温(°C)			積算日照 時間(hr)	気温(°C)			積算日照 時間(hr)
		最高	最低	日較差		最高	最低	日較差	
平成25年	8月6日	24.3	18.3	6.0	51	31.5	21.6	9.9	113
平成26年	8月2日	28.5	21.1	7.4	131	28.5	21.9	6.5	61
平成27年	7月29日	29.4	20.0	9.4	157	31.8	22.2	9.6	103
平成28年	8月2日	25.8	18.7	7.0	96	30.3	20.3	10.0	133
平成29年	8月1日	29.4	21.1	8.3	134	25.5	20.2	5.3	15
本年値	7月31日	29.5	21.4	8.1	115	29.9	20.5	9.4	99
平年値	8月4日	26.8	19.1	7.6	100	29.0	20.7	8.2	70
平年差・比	▲ 4日	2.8	2.3	0.5	115%	0.9	▲ 0.2	1.1	142%

注1) 平年差: 過去5か年(平成25～29年)の平均値との比較

注2) ▲は平年より早いことを示す。

# 本田の生育経過

県平均出穂期 7月31日 (平年より4日早い)

## 【出穂期】

・県の平均出穂期は7月31日と、平年より4日早く(表3)、県内全域で同様の傾向である(表4)。

表3 出穂期の比較1 (県全体：8月17日現在)

	始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
本年	7月28日	7月31日	8月9日
前年	7月29日	8月1日	8月11日
平年	8月1日	8月4日	8月11日
平年差	4日早い	4日早い	2日早い

注)平年値:平成20~29年の10か年のうち最も早い年と遅い年を除いた8か年の平均値。

表4 出穂期の比較2 (地域別：8月17日現在)

地域名	出穂始期			出穂期			穂揃期		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
大河原	7月25日	7月29日	▲4日	7月28日	8月2日	▲5日	8月10日	8月10日	0日
仙台	7月28日	8月1日	▲4日	8月1日	8月4日	▲3日	8月8日	8月10日	▲2日
大崎	7月29日	7月31日	▲2日	8月1日	8月4日	▲3日	8月8日	8月9日	▲1日
栗原	7月27日	8月1日	▲5日	7月31日	8月4日	▲4日	8月12日	8月11日	1日
登米	7月29日	8月1日	▲3日	7月31日	8月4日	▲4日	8月6日	8月9日	▲3日
石巻	7月29日	8月1日	▲3日	8月1日	8月4日	▲3日	8月10日	8月10日	0日
気仙沼	8月1日	8月5日	▲4日	8月4日	8月8日	▲4日	8月11日	8月13日	▲2日

注1) 平年値は平成20~29年の10か年のうち最も早い年と遅い年を除いた8か年の平均値。

注2) ▲は平年より早いことを示す。

## 【作況試験ほの生育状況】

・古川農業試験場作況試験ほの「5月10日植ひとめぼれ」における幼穂形成期は平年より4日遅く、減数分裂期は平年より1日遅かった。出穂期は平年より2日早かった(表5)。

表5 移植時期別の各生育ステージの状況 (作況試験ほ)

品 種	移植期	幼穂形成期		減数分裂期		出穂期		成熟期 (平年値)
		本年値	平年差	本年値	平年差	本年値	平年差	
ひとめぼれ	5/1	7/11	6日	7/19	2日	7/31	0日	(9/13)
ひとめぼれ		7/12	5日	7/20	1日	8/1	▲2日	(9/17)
ササニシキ		7/12	5日	7/19	0日	7/31	▲2日	(9/17)
まなむすめ	5/10	7/14	7日	7/22	3日	8/3	1日	(9/17)
つや姫		7/18	2日	7/27	▲1日	8/12	0日	(9/28)
だて正夢		7/15	—	7/24	—	8/7	—	—
ひとめぼれ	5/21	7/17	5日	7/26	3日	8/8	1日	(9/22)
ササニシキ		7/17	5日	7/26	4日	8/8	2日	(9/23)

注1) 平年差：過去5か年(平成25~29年)の平均値との比較

注2) ▲は平年より早いことを示す。

### 【いもち病】

- ・穂いもちの発生量はやや少ないと予想される。

### 【紋枯病】

- ・発生量はやや多いと予想される。

### 【斑点米カメムシ類】（アカスジカスミカメ）

- ・発生量は多いと予想される。

※詳細は宮城県病害虫防除所のwebサイトを参照ください（最終ページにURL記載）。

## これからの栽培管理の要点

- ・出穂期が平年より早く、東北地方の8月25日から9月24日までの1か月予報(仙台管区气象台8月23日発表)によると、8月中は気温が高くなる可能性があるため、刈取時期も早まるものと考えられる。
- ・地域や品種、栽培方法により出穂状況に差があるので、ほ場をよく見まわり生育状況に合わせた栽培管理に努める。
- ・収穫用機械・乾燥調製施設等の点検・整備は、早めに行う。

### 【水管理】

- ・刈取作業を容易にするため、早めに落水する傾向にあるが、早期落水は整粒歩合が低下する。品質向上のため、排水良好ほ場では落水時期を出穂後30日前後を目安とする。

### 【出穂期後の積算気温による刈取適期判定の目安】

- ・本年の県平均出穂期（7月31日）からの出穂期後の積算平均気温では、「ひとめぼれ」の刈取適期は9月8日頃からと予想される（表6：今後の気象条件により更に早まる場合あり。8月15日までの気象実測値、8月16日以降は平年値で予測）。

### 【適期刈取り】

- ・刈取時期は、ほ場毎に熟色や籾水分等から総合的に判断することが必要で、適期は、籾の90%程度が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から3分の1程度黄変したときとなるので、葉色にまどわされないよう穂をよく観察し、刈遅れないよう注意する。
- ・刈遅れは、立毛中の胴割粒、穂発芽、茶米などの被害粒の発生が多くなり玄米品質を低下させる。

### 【収穫・乾燥・籾摺】

- ・収穫した生籾を放置すると発熱して変質米の原因となるので、刈取り後はすみやかに乾燥する。
- ・火力乾燥における籾水分の測定は、測定サンプルから未熟粒を除いて3回以上行う。また、乾燥後の籾水分は、室温（常温）まで下がってから測定し、仕上がり玄米水分を15%とすることが基本である。
- ・過乾燥は胴割米の発生・砕粒の増加・光沢の低下等品質低下の原因となるので、乾燥しすぎないように十分注意する。
- ・倒伏した稲や未熟米の多い籾など高水分籾を高温・連続的に乾燥すると、水分ムラや胴割米の発生が増加し、乾燥後の貯留中に青籾からの水分移動により水分の戻りが生じやすくなる。そのため、高水分籾の乾燥には二段乾燥が適しており、籾水分が20%以下になるまで乾燥した後、乾燥を一時中止し、籾の水分ムラが少なくなってから再度仕上げ乾燥を行うことが大切である。
- ・籾摺は肌ずれ防止のため、籾の温度を室温まで下げてから行い、またロール式籾摺機の場合は、籾の状態や品種等に合った適正なロール間隔に調整することが大切である。

表6 「ひとめぼれ」の刈取予測（出穂期後からの積算平均気温到達推定日）

地帯区分	アメダス地点	基準温度	出穂日				
			7月26日	7月31日 (県出穂期)	8月5日	8月10日	8月15日
三陸沿岸	気仙沼	940℃	9/6	9/11	9/18	9/23	10/1
		1,000℃	9/8	9/14	9/21	9/27	10/4
		1,100℃	9/13	9/20	9/26	10/3	10/11
	志津川	940℃	9/5	9/11	9/17	9/23	10/1
		1,000℃	9/8	9/14	9/21	9/27	10/4
		1,100℃	9/13	9/19	9/26	10/3	10/11
山間高冷	新川	940℃	9/7	9/13	9/20	9/26	10/4
		1,000℃	9/10	9/16	9/23	9/30	10/8
		1,100℃	9/15	9/22	9/30	10/7	10/16
北部平坦	築館	940℃	9/4	9/10	9/16	9/22	9/30
		1,000℃	9/7	9/13	9/20	9/26	10/4
		1,100℃	9/12	9/18	9/25	10/2	10/10
	米山	940℃	9/4	9/10	9/16	9/22	9/29
		1,000℃	9/6	9/12	9/19	9/25	10/3
		1,100℃	9/11	9/18	9/25	10/1	10/10
	古川	940℃	9/4	9/10	9/16	9/22	9/29
		1,000℃	9/6	9/13	9/19	9/25	10/3
		1,100℃	9/11	9/18	9/25	10/1	10/9
	鹿島台	940℃	9/4	9/10	9/16	9/22	9/30
		1,000℃	9/7	9/13	9/20	9/26	10/3
		1,100℃	9/12	9/18	9/25	10/2	10/10
大衡	940℃	9/4	9/10	9/16	9/22	9/30	
	1,000℃	9/7	9/13	9/20	9/26	10/3	
	1,100℃	9/12	9/18	9/25	10/2	10/10	
仙台湾岸	石巻	940℃	9/4	9/9	9/16	9/21	9/28
		1,000℃	9/6	9/12	9/19	9/25	10/2
		1,100℃	9/11	9/17	9/24	9/30	10/8
	仙台	940℃	9/2	9/8	9/15	9/20	9/27
		1,000℃	9/5	9/11	9/18	9/23	9/30
		1,100℃	9/10	9/16	9/23	9/28	10/6
	名取	940℃	9/3	9/9	9/15	9/20	9/27
		1,000℃	9/6	9/11	9/18	9/23	9/30
		1,100℃	9/10	9/16	9/23	9/29	10/6
	亶理	940℃	9/3	9/9	9/15	9/21	9/28
		1,000℃	9/6	9/12	9/18	9/24	10/1
		1,100℃	9/11	9/17	9/24	9/30	10/7
西部丘陵	白石	940℃	9/4	9/10	9/16	9/22	9/29
		1,000℃	9/7	9/13	9/19	9/25	10/3
		1,100℃	9/12	9/18	9/25	10/1	10/9
	川渡	940℃	9/6	9/12	9/18	9/25	10/2
		1,000℃	9/8	9/15	9/22	9/28	10/6
		1,100℃	9/14	9/20	9/28	10/5	10/14
南部平坦	丸森	940℃	9/3	9/9	9/16	9/22	9/29
		1,000℃	9/6	9/12	9/19	9/25	10/3
		1,100℃	9/11	9/17	9/24	10/1	10/9

注1) 気温の積算値は8月15日までは各地点の実測値、8月16日以降はアメダスの平年値を用いた。

注2) 出穂期後の積算平均気温到達推定日は、出穂期翌日からの積算平均気温が940℃(「ひとめぼれ」の刈取早限)、1000℃(同刈取適期)、1100℃(同刈取晩限)を超えた日とした。

注3) 本年の県平均出穂期は7/31(平年値8/4)。

## 大豆の栽培管理

### (1) 生育概況（古川農業試験場作況試験，8月9日現在）

- ・生育量は平年よりやや多い。
- ・開花期は，5月25日播種は平年より4～5日早く，7月3日播種は平年より1日早い  
5月25日播種 タンレイ・タチナガハ：7月22日，ミヤギシロメ：7月29日  
7月3日播種 タンレイ：8月10日

### (2) 栽培管理の要点

#### 【排水対策】

- ・降雨による停滞水が湿害を助長し，根粒菌の働きの低下や，茎疫病や黒根腐病などの土壌病害が蔓延しやすくなるので，明きょや排水溝の補修を行い排水対策を徹底する。

#### 【病虫害防除】

- ・紫斑病などの子実病害やマメシクイガ，フタスジヒメハムシなどの害虫の防除に当たっては，ほ場を見回って開花の早いものを標準にして防除時期を設定し，莢に薬剤が十分付着するように丁寧に散布する。なお，防除時期の目安は，子実肥大初期～中期（8月下旬～9月上旬頃）である。

## 麦の栽培管理

- ・麦栽培では，播種時期が遅れるほど気温が低下するため，出芽の遅れ，初期生育量不足等の要因となる（図2）。
- ・平成29年は，稲刈り時期から降雨が続いたため播種が遅れたほ場が多く，初期生育が不足して，品質・収量に影響したと考えられる。
- ・品質を確保するため，地帯区別の播種適期を目安に，稲刈り計画とあわせて麦の作付計画（ほ場選定・播種作業計画等）を策定し，可能な限り適期に播種できる体制を整える（表7）。

#### 【高品質麦生産のための適期播種】

- ・麦栽培では，播種時期が遅れるほど気温が低下するため，出芽の遅れ，初期生育量不足等の要因となる（図2）。
- ・地帯区別の播種適期を目安に，稲刈り計画とあわせて麦の作付計画（ほ場選定・播種作業計画など）を策定し，可能な限り適期に播種できる体制を整える（表7）

表7 麦類の播種適期

地帯区分	播種適期	播種晩限
北部平坦	10月 5～10日	10月20日
南部平坦	10月 15～20日	10月30日
仙台湾岸	10月 5～10日	10月20日

※ 小麦品種“あおぼの恋”については上記期日よりそれぞれ10日遅い適期・晩限である。

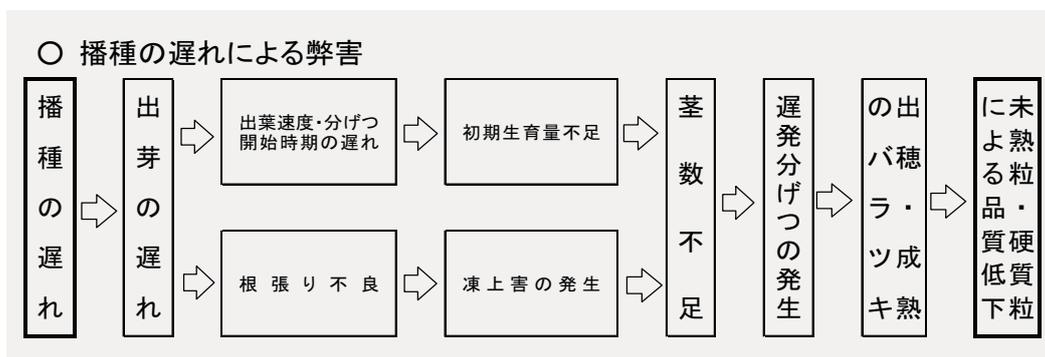


図2 播種の遅れによる弊害（麦類）

稲作情報や発生予察情報をより早くご利用いただけるよう，下記の方法による提供を行っております。また，内容に関するお問い合わせは古川農業試験場（0229-26-5100）までご連絡ください。

- 【稲作情報：古川農業試験場】 <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hk-nousi/>
- 【発生予察情報：病虫害防除所】 <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>
- 【気象予報：仙台区気象台】 <http://www.jma-net.go.jp/sendai/>

（次回発行：12月中旬予定）